

サポーターズカンファレンス議事録

2015年3月1日(日)

あきぎんスタジアム会議研修室 1、2、3

《出席者》

- ・株式会社ブラウブリッツ秋田 代表取締役社長 岩瀬 浩介
- ・株式会社ブラウブリッツ秋田 常務取締役 加藤 芳樹
- ・株式会社ブラウブリッツ秋田 事業部マネージャー 外山 新平
- ・株式会社ブラウブリッツ秋田 運営担当 梶原 昂也

【梶原】

それでは、定刻となりましたのでサポーターズカンファレンスを始めさせていただきます。まず始めに、本日出席の株式会社ブラウブリッツ秋田フロントスタッフよりご挨拶をさせていただきます。

※それぞれの挨拶は紹介と挨拶は議事録では省略させていただきます。

【岩瀬】

改めまして皆さんこんにちは。まずはこの寒い中、本日サポーターズカンファレンスへお越しいただきまして本当にありがとうございます。また、日頃よりブラウブリッツの活動に対して、多大なるご支援とご協力、そして熱い応援をいただきましたことをこの場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。特に昨シーズン、あのようなか績の中で皆様に関しましてはゴール裏から、本当にチームを後押しいただいたこと、そして1年間通して選手、スタッフ、会社に対しましてもご支援いただいたことに対して改めて御礼申し上げます。

本日、サポーターズカンファレンスにこんなにたくさんお集まりいただいて皆さんの期待度といったものにしっかり答えられるように取り組めるようなカンファレンスに出来ればと思います。お隣のモンテディオ山形はご存知のとおり、今シーズンはJ1に昇格しました。皆さんも観ていただいたと思いますが私もさきスポのコラムを書かせていただいております。なぜ、山形に出来て秋田に出来ないのかという想いでおります。ただ、ひとつ違うのは山形にはクラブの歴史が違います。どのクラブにもそれぞれの歴史がございます。良いところばかりに見えるかもしれませんが、そこには深い深い歴史があります。松本山雅にも私たちとは比べ物にならない歴史があり文化として根付いております。私たちもそのような歴史や文化を慌てずに1年1年地に足付けて築いていきたいと思っていますので、本日のカンファレンスはその土台になっていけばと思っています。本日はよろしく願いいたします。

【梶原】

それでは、本日出席いただくにあたり、何名かの方々に質問事項をいただいております。その質問に関して、まずはクラブから回答させていただければと思います。各部署といたしますか、質問をこちらで分けさせていただきましたので種類ごとに回答させていただければと思います。質問をいただいた方は本日出席いただいている方ですので、どなたからいただいた質問ですという表現で進行させていただきますがよろしいでしょうか？

それでは、どなたからいただいた質問ですという表現で進めさせていただければと思います。まずは強化の部分に関してを岩瀬のほうから回答させていただきます。

★今シーズンより監督に就任した間瀬監督の契約年数は何年か？

【岩瀬】

記者会見のほうでも話したと思いますが、昨年12月初旬に前GMが辞任いたしました。今シーズンのチーム編成は私が強化担当ということで今シーズンの編成を行いました。私たちが目指すサッカーを築くうえで、今までの積み重ねを発展させることが出来る監督ということで今回、間瀬秀一監督の就任が決まった次第でございます。契約年数は1年です。以上です。

★3ヶ年計画の2年目が経過した中でGM業務についてどのような役割、どんな業務に関わり、どんな実績、成果を上げ、どんな残務が残っていたのか。また、GMポストは今後どうなるのか？

【岩瀬】

まずはGMですが、クラブによって役割が全然違います。経営側に関与するタイプ。うちに関しては昨年のカンファレンスでもお話させていただいたのですが、チーム統括という立場でやっておりました。今後のGMポストについてですが、今シーズンは私が務めさせていただきます。GMというよりも強化担当という形でやらせていただきます。予算という部分、財務面に関しては代表として私が1番把握しておりますし、チーム強化といった部分については代表兼任でやらせていただきます。ただ、クラブ形成をしていく上でこれがベストだとは思っていません。しかし、ブラウブリッツに関しては慌ててクラブのことを理解していない人物を招聘してくるよりも、信用出来る人物であるということをしっかり見極めたうえで、そのポストを決めていければと思います。というのもこの部分は選手1人1人の人生に関わる部分ですので簡単には決められないなと思っています。なので、今シーズンに関しては私自身が誠心誠意選手たちに尽くして、愛情と厳しさを持って行っていくのが理想なのかなと。うちの経営規模を大きくしていくためにもGMもしくは強化担当を置くという部分は前向きに考えたいですが、幸い自分もサッカー選手であり誰よりもこのクラブをずっと見てきたので、どういうクラブ作りをしなければならないということは、ある意味私が1番分かっていると思います。それに至ったのもこのクラブ5年目にな

る中で、昨年 J リーグに参入したことで試合運営の部分、営業、事業、各セクションごとに社員が育ってくれたということが大きいと思います。これまでに比べても業務が良い意味で私から離れて行っております。その部分が気持ちの余裕が生まれたことがチーム強化に携わろうと決意した部分と繋がっています。これは大きな覚悟と責任が生まれます。そういった中でスカウティング含めてやっております。これまで行ったトレーニングマッチも全て評価制度を設け選手たちの評価をデータベース化しております。スカウティングについては昨日まで私は広島のほうへ行ってデンソーカップという大学の地域選抜の大会を視察して来ました。大学を卒業して J リーグでプレーしている選手は 441 名います。その中で J1 でプレーしている大卒選手の 85% はデンソーカップでプレーしています。J2 になれば半分にはなりますが、有能な選手たちが集まる大会となっており、スカウティングには最適の大会です。このような大会でプレーしている選手たちもリストアップして今後のチーム強化に繋げていければと思います。

一つ目の GM についてですが、新たな GM として候補は何名かいました。実際に何名かにも会いました。会った中で断られた人間、こっちから断った方もいます。先ほどから申し上げているようにしっかりとした人を配置できなければ選手、スタッフに迷惑をかけてしまいます。

二つ目の成果については 3 ヶ年計画の 2 年目が終わりました。いわば改革を起こした 2 年間でしたが、私自身マイナスでは決してなかったかなと思っています。確かに 8 位という結果に終わりました。計画としては最低でも上位に喰らいつきたいなと思っていました。4、5 位くらいを目指して戦ってきましたが結果は 8 位。皆さんも観ていても何だか力が入らないような感じだったと思います。これに関してですが、1 年目は予想していた以上の成果が出ていたと思います。そこからの 2 年目ですが、何かパスサッカーを言い訳に美学に逃げるような方向性になってきてしまいました。昨年、実際に春が終わったくらいのタイミング、そして夏、10 月に話をしました。その中で負けたときの言い訳として僕らは精一杯やったというような、パスを回すことが美になってしまっていました。ただ、その部分を修正出来なかった責任は GM 含め、私の責任なのかなと思っています。ただ、この 2 年間は決して無駄ではないということは言えます。今年の大館キャンプ、御殿場キャンプに私も帯同していましたが、間瀬監督からも個々の能力は高いと評価を頂いています。高いというよりは 2、3 年前に比べて高くなってきたというのが現実です。皆さんも気付いているかと思いますが、昨シーズンで契約満了となった選手は 4 名。レンタルで戻した 2 名の合計 6 名です。それまでは 2 ケタの人数が毎年チームを去る状況だった中で 6 名の入れ替えになったのは 1 人 1 人の個々の能力が上がってきたからという部分と、これからの期待値含めて今回のチーム編成になった次第です。なので、今までやってきたことは決して無駄ではなく一つの成果だと感じています。ただ、昨年目標順位までいける勝ち点を積み上げることが出来なかったこと、勝つことが出来なかったことを踏まえて及第点を与えることが

出来るのかといえばそうではないと思っています。今シーズンは抜本的改革として監督含めスタッフ人事含め人事変更を行った次第です。

【出席者 A】

ひとつ良いでしょうか？前 GM の新里さんは育成年代も管轄されていたと思いますが今は岩瀬社長がその部分も管轄されるということでしょうか？

【岩瀬】

基本的にはそういうことになります。ただ、アカデミーに関しては私 1 人では抱えきれない部分もありますので常務も含めてやっていきます。

【梶原】

強化面の質問については以上となりますので先に進みます。続きまして、広報および事業について弊社の外山よりお答えさせていただきます。試合会場にて急にイベントを行ってもなかなか来場者が増えていかないという中で年間を通じたイベント予定を HP や SNS を活用して掲載することは出来ないのかというご意見をいただいております。

【外山】

事業部マネージャーの外山です。よろしくお願いたします。今回非常にありがたいご意見をいただくことが出来ました。ありがとうございます。実際イベントは直前に決まることもあります。そのようなときはなかなか広く告知出来ないということがあります。多くの方々にイベント実施を認知していただけなかったことはございます。今シーズンに関してはイベント内容をこれまでより早く決めて告知出来ればと思います。現状かなり先の部分まで決まってきました。結論から言いますと、これまでよりも早い段階で出していく方向性でいます。また、出すタイミングだけではなく、告知する媒体をその内容に合わせて改善をしていきます。いわば、広報として昨年至らなかった部分を洗い出して改善を進めているところです。皆様の期待に応えられるような情報を出していければと思います。広報については以上となります。

事業部として質問いただきました、秋田ノーザンハピネッツとの事業連携についての質問にも続けてお答えさせていただきます。こちらについても先日、ハピネッツさんのホームゲームにブラウゴンが登場して果たし状を渡すという企画を行いました。これについては今後も連携を組んで企画を行っていければと思います。理由としてはやはりプロスポーツクラブとしてブラウブリッツとハピネッツさんは秋田のスポーツ界、そして秋田県を盛り上げていかななくてはならないと思っています。今後、秋田県の方々スポーツに触れる機会を増やしたいという想いがありますので今後もハピネッツさんと一緒に出来ることがあるんじゃないのかなど。そのような地域のためにお互いクラブのためになるのな

らば集客に結びつけられる部分は連携を取っていただければと思います。以上です。

【梶原】

以上が広報および事業についての質問事項の回答となります。続きまして、試合運営について私のほうから回答させていただきます。

プロ野球ではカープ女子であったり女性をターゲットとしたイベントがたくさんありますが、ブラウブリッツではそのようなイベントを企画していくことはどうでしょうか？というご意見をいただきました。女性をターゲットとするのはクラブとしても方向性は間違っていないですし社内でも共有しております。これまでもレディースデー、ネイルサロンの出展、スイーツの出店などを行ってきた実績があります。ひと通り女性をターゲットとした企画は行ってきたかなど。今シーズンからはそのような企画の質を上げて満足していただけるかという点を追求出来ればと思います。

続きまして、会場アクセスについてです。他クラブと異なりあきぎんスタジアムは市役所などに隣接しており、交通網もしっかりしている。交通網がしっかりしているということを利用して、バスを利用して来場した場合に特別価格を設定したりするのはどうか。現在は皆さんもご存知のとおり、バス利用者への特別価格は設定しておりません。しかし、ご指摘いただいたとおり駐車場問題は必ず発生してきます。バス会社との連携を検討しながらも車を使用しないで来場していただける方法も検討していきたいと考えております。毎年行わせていただいているアサヒビールさんの冠マッチではビール祭りを行わせていただいております。アルコールを提供する企画も行っていますので車を使用しないで来場いただき、試合と一緒にアルコールを楽しんでいただける方法を落とし込んでいただければと思います。営業チームとも連携していただければと思います。

続いての質問です。メインスタンドのチケット保持者が会場の外へ出ないでバックスタンドやゴール裏へ移動出来るような通路を設置いただければと思います。私はメインスタンドで応援誘導を行っていますが、メインスタンドの方々からゴール裏へ行ってみたいという声をよくかけられます。このような状況を踏まえてメインスタンドが混雑している試合であったりときに外へ出ないでゴール裏へ移動出来ればと思っています。メインスタンドの席種チケットを持っているメンバーが応援の盛り上げであったり一緒に応援いただいたお礼をさせていただいているなどの活動を行っています。そのような活動を積み重ねることで会場全体の盛り上げに繋がると考えていますのでメインスタンドからの移動方法について検討いただけませんか？という質問をいただいております。クラブとしてはスタジアム全体で応援するという環境作りに協力いただいている点に関しては感謝しております。可能であれば今シーズンもこれからも引き続きお願いしたいなと思っております。場外に出ないでメインスタンドからバックスタンドやゴール裏へ移動出来るのがベストであると個人的にも思っていますが、あきぎんスタジアムは有料試合をやるために造られたものではありません。今後進んでいくであろうスタジアム新設や改修の際に皆様

からいただいたご意見が反映出来ればと思います。現状はこれまで通りの運用方法で行ければと思っております。

次にいただいた質問は施設面というよりは観戦面に関するものです。アウェイツーリズムを尊重し、アウェイ来場者をおもてなすというのは観光県を目指す秋田県の方考え方であり、岩瀬社長の目指すところでもあると思います。また、最近の J リーグでサポーターの挑発行為など行き過ぎた行為への処罰を見る限り、健全で安全なスタジアムを目指すという考えがあると思います。そこで相手選手やサポーターに対してリスペクトに欠ける言動や挑発行為があった場合、運営側としてどう考えているのかという質問をいただいております。まずクラブとしてという前に J リーグとして選手、ファン、サポーターに対してのフェアプレイに反する言動や行動は絶対に許しておりません。そこに関しましてはクラブのも同様の考えを持っています。絶対起こしてはいけない、起きてはいけないというのが差別行為です。万が一発生してしまった場合に関しては、当事者に対して相応の処罰を下すという決断をクラブもしなければいけません。そこはご理解ください。逆に皆様は今日もそうですが貴重な休日に観戦料を支払い、交通費をかけてお越しいただいていると思います。ですので、せっかく来ていただいたにも関わらず選手たちが見せたプレーが不甲斐ないものであったり納得のいかないものであったならば、皆様から厳しいお言葉を掛けていただいても構わないと個人的には思っております。しかし、それが選手たちを侮辱するような発言になっていくのではなく、叱咤激励にいただければ皆様からの言葉を選手たちは受け止め、次戦以降勝ち点 3 に向かって戦ってくれるはずです。私たちから言わせていただきたいのは行き過ぎた言動や行動は絶対に止めて欲しいということ。私は試合中第 4 の審判横におりますがゴール裏やバックスタンドなど皆様が思っている以上に顔まで正確に確認出来ます。万が一ふさわしくない発言をした方がいたのならば早い段階で特定することが可能です。ブラウブリッツ秋田ホームゲームだけではなく、J リーグの試合会場がフェアプレイの精神に包まれる 2015 シーズンにしていければと思います。

続きまして、入場ゲートの運用について質問をいただいております。ホームゴール裏の倉庫(サッカー倉庫)脇の開門可能な柵を入場ゲートとして運用出来ないかというものです。この会場は先ほどもお話しさせていただきましたが、そこまで大きくない施設です。その中で試合運営させていただいております。会場企画を充実させるためにグルメなどを増やしていくという方向性の中で、入場ゲートは人が常に滞留する場所です。クラブとしては出来るだけ広い場所で入場ゲートを設置したいと思っております。現状、倉庫裏はスタッフの出入りもあることや倉庫内に備品を置かせていただいているということもあるのでゲートとしての運用は難しいです。基本倉庫横の道路がスタジアムグルメエリアになります。人の滞留が起こることが想定されますので今シーズンも昨シーズン同様の運用にご協力いただければと思います。

続きまして、会場内の横断幕掲出や装飾についてご提案をいただいております。あきぎんスタジアムのメインスタンド出入口の部分に装飾幕を付けることは可能かというご提案

です。実際質問をいただいた際にメールに添付いただいたベガルタ仙台のイメージ図を確認させていただきました。コンコースの上部分に少し余っている部分にクラブカラーの布であったりを装飾することで会場全体の雰囲気であったりホームアドバンテージの雰囲気を出せばというものです。メインスタンドは横断幕掲出は禁止です。これまで装飾幕という考えがなかったのでこれと言って決め事があるわけではありません。本件に関しましてはクラブでの検討材料とさせていただき、施設所有者の秋田市さんとも協議するものかなと思います。決して観戦する方の邪魔にもならないですし、スタジアムの雰囲気づくりにも繋がりますので前向きに検討出来ればと思います。本日正式なお答えは出来ませんが検討材料として持ち帰らせていただきます。

もう1点いただいております。昨シーズンのホームゲームで実際に発生した事象です。8月3日のホームゲームで送迎車を運用させていただきました。竿燈祭りと同日開催でしたので駐車場問題を解決するための施策です。その際、あきぎんスタジアムから駐車場へ戻る最終便が来なかったため利用することが出来なかったということが発生しました。本件に関してクラブより原因などを説明させていただければと思います。まず、正直なところ今回ご指摘いただくまでこのようなことが発生していたことをクラブは認識出来ておりませんでした。実際ご迷惑をおかけしてしまいましたのでこの場をお借りしてお詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。なぜ、このようなことが起きたのか。当日送迎便を担当していたスタッフとも話しました。まずバス会社などを使わずクラブ独自で送迎を行ったことで案内看板であったり時刻表のような情報展開などのオペレーションが落とし込まれていなかったということが1番の原因です。その中で同様なことが起きないように、クラブ内でオペレーションを構築していきたいと思います。この度は大変申し訳ございませんでした。

続きまして、試合観戦についてです。最近ゴール裏の人数も増えてきている中でお年寄りや子どもが増えてきている印象があります。どのような方がゴール裏に来て恐怖感や不快感を感じることなく、安心して観戦することが望ましいと考えているがクラブとしてはその点をどのように考えているのかという質問です。クラブとしては幅広い年齢層にゴール裏で応援いただいていることを非常に嬉しく思っています。また、ゴール裏で応援してくれる子どもたちにとって今後もブラウブリッツ秋田というクラブが子どもたちの中で生きていくのかなと思っています。進学や就職などで県外に行かれる方が多いというのが秋田県の現状ですが、その子どもたちが大人になったときにアウェイゲームでのゴール裏に来てくれるかもしれない。これは私個人の意見ですがゴール裏はクラブの帰属意識を作ってくれる場所であると思っています。今シーズンも引き続き皆様と一緒に熱く応援してくれる方々が増えればと思っています。逆に先ほどの回答と繋がるかもしれませんが侮辱的発言などがお年寄りや子どもたちには恐怖に感じてしまうことがあるはずですがクラブとしては先ほども言いましたが侮辱的発言などは絶対に止めて欲しい。応援の環境についてはクラブも細かく口出しすることはしませんので、皆様のほうで応援環境であった

り応援スタイルを築いていただければと思います。

試合運営についてゴール裏からのブーイングについての質問をいただいております。この件については岩瀬からお答えさせていただきます。

【岩瀬】

昨年ホームゲームラスト 2 試合くらいでホームゴール裏から相手選手がボールを持つとブーイングするということが起きました。当事者たち以外のサポーターからはこのブーイングに不快感を持つ方がたくさんいましたがクラブとしてはどう考えますか。今後現在の BLUE+ とは別に応援を行うことが考えられます。この場合、バラバラな応援になるかと思っています。現状私設応援団の BLUE+ にこれを止める権利はないと思います。クラブとしてどのような対処法を採るのでしょうかというご質問です。

実際これまでも他クラブでサポーターが分裂したという事態は多々起こっています。私が見た中では JFL 時代に栃木 SC が分裂した形で応援していた覚えがあります。ひとつはメインスタンド、もうひとつは確かバックスタンドだった気がします。お互い応援指針の違いがあったのかなという風に思っています。ただ、目指すべきことは分裂していても同じだったのかなと思っています。「クラブを強くしたい」「J2 に昇格して欲しい」という考えは一致していたはずで、向かう方向が一緒であればまずはしっかり話し合っていたきたいと思っています。

あとはブーイングについてクラブとしてやってはいけません、やってくださいなどと言うことではないと思っています。また、やってくださいと言ったところでやっていただけるのかという問題にもなります。その方向性をクラブが決めるのは違うと思います。先ほど運営の梶原からもありましたように、ゴール裏はブラウブリッツ秋田の帰属意識を築いていく場所であり、これはクラブが主導で築くものではありません。なぜならばこのクラブを公共の財産、資産だと思っています。言わば地域の皆さんのチーム、秋田の皆さんのチームなので、しっかりと一つになって応援いただきたいなと思っています。

ただひとつだけご紹介するのは、私たちの試合は有料試合です。私が以前視察に行った柏で行われた柏レイソル vs 名古屋グランパスの試合。前半開始早々にグランパスの闘莉王選手が激しいアタックをしました。そのプレー以降、闘莉王選手がボールを持つたびに 10,000 人がブーイングを浴びせていました。パスが回ってくると全てブーイングです。時間が経つにつれてどうなったかといいますと、実際闘莉王選手は何も感じていないかもしれませんが周りの選手含めて雰囲気は闘莉王選手へのパスが減っていった気がします。これはあくまでも私の主観です。徐々にリズムが崩れ、結果、先制したグランパスが逆転負けしてしまいました。あの試合を観て感じたのは間違いなくサポーターの力で勝ったなと感じました。ブーイングだけでそうなったとも言えませんが、ゴール裏含め会場全体での熱狂的な応援があったからこそ選手、チームが一丸となって戦えたと思っております。昨年も皆様からの叱咤激励はいただいても構わないとお話させていただきました。クラブとしては

皆さんに有料で来ていただいている。ましてや、来場者を増やしたいという中で、お友達を連れて来ていただいている方もいらっしゃると思います。お友達に対して皆さんには誘った責任があります。私たちが不甲斐ない試合、チンタラやっているように映ったりした際、クラブに対して言いたいということがあるかと思います。そのような中で叱咤激励をいただくのはクラブとしてしっかりと受け止めなければなりません。但しお互いにフェアプレイに乗っ取った形で後押しを頂ければと思います。私はブーイングが悪いということはありません。どのスタジアムでもブーイングはあります。なので、先ほども言いましたが分裂は絶対に良くないです。ただ、このスタジアムの空間をある意味興行といった演出という点で盛り上げていただければと思います。応援スタイルに関してもクラブ主導ではなく、皆様のほうで話し合っただけければと思います。

分裂すれば負けたあとの試合で選手たちが、あちらには挨拶に行っこっちには来ないというふうないらぬことが起きます。サポーターが分裂している状況も選手たちは感じると思います。何やっているんだろうという思いを持つと思います。チームがひとつになるというのはサポーター含めてひとつになるということです。選手、スタッフ、フロント、アカデミー、スポンサー、ファン、サポーターがひとつになって初めて大きな力が生まれます。分裂することは絶対に避けていただければと思います。

【梶原】

私からも本件に関して私見ではありますが付け加えさせていただきます。私も秋田でお世話になり始めて 5 シーズン目、秋田に来る前はあるクラブのゴール裏で皆さんと同じように大声を出していた人間です。どこのクラブであるかは関係ありませんが、2 回の降格と 1 回の昇格をゴール裏で経験してきました。そのクラブも残留争いをしているときにゴール裏が完全に分裂しました。口では残留だと言っているにも関わらず、今思うとスタジアム内にそんな雰囲気は一切ありませんでした。選手たちもどうしていいかわからない。結果、そのまま降格しました。そのような現実を見ているのでブラウブリッツは今後上に上がっていくだけのクラブです。クラブも皆さんとひとつになって戦っていきなという思いを個人的には持っておりますのでその部分をお伝えさせていただきます。続きまして総務面、スタジアムに関していくつかご質問をいただいております。その点につきまして岩瀬より回答させていただきます。

【岩瀬】

スタジアム改修について何か進んでいるのでしょうか。魁新報のほうで私がスタジアム構築について語っていましたがどのようになるか楽しみですという質問をいただいております。また、今後の専用スタジアム構想について教えてくださいといただいております。

現状進んでいる、進んでいないどちらとも言えない状況が続いています。改修案、新設案ともに出てきているのは事実ですが、現実的にスタジアム検討委員会で設立されている

のかと言ったらそうではない。国内では地方創生が色々と騒がれております。北九州、長野、静岡、山形にもスタジアム構想が出てきております。スタジアムを基軸とした街づくりが進んでおり、国の政策とも合致している部分があります。そのような事例をクラブとしては自治体、国会議員、県議会、市議会にプッシュし続けている次第でございます。クラブとしては本当にしつこいと言われるくらいプッシュし続けています。実際、昨年 J リーグのスタジアム担当の方に秋田へ来ていただきました。A-スタが改修出来るものなのか。そして新設は実際に可能なのかということを見ていただきました。その際に A-スタも 10,000 名、15,000 名規模まで改修可能と判断されました。そのような中で自治体の方にも J リーグのスタジアム担当と一緒に報告をいたしました。ご報告したのは 50 億という大金を使用して改修しても県内のスポーツ施設自体は増えないというのが現状です。改修の工事を数年かけて行っても、実際の施設数が増えないというのが事実です。それが果たして本当に正しいことなのかという部分を踏まえて、クラブとしては新設案を含めプッシュしていきたいと思っています。ただ、このことは私たちだけで決められることではありません。銀行さんが私に 85 億円をかしていただけるというのであればいいのですが、私にはそんな信用はございません。知事からも市長からも言っているのはブラウブリッツ秋田の順位、集客、そういったものを目に見える結果で残してくれないと動くに動けないと言われております。クラブとしてはまずは優勝を目指せるクラブを目指していきたいと思っています。並行して国会議員、県議会、市議会にプッシュし続けていきたいなと思っております。クラブとしては優勝、J2 と J3 の入れ替え戦圏内を目指し戦ってまいります。ブラウブリッツ秋田が優勝すれば J2 に昇格出来ると 85% くらいの方が思っていると思います。そうなったときに入れ替え戦を戦えない。優勝しても J2 に行けないとなれば、なぜ昇格出来ないの?? という形になります。スタジアムがないから昇格できないということを知っていただきたいです。そういったときに初めて県民の意志で造られる施設が出来るとは思いません。J リーグではスタジアムに関する説明会がありました。スタジアムを中心とした街づくり、地方創生ということが書かれております。そのような資料は全て自治体に提出してしっかり連携を取っていきたいなと思っております。スタジアム構想については言えませんが、人口が減っていくなかで、複合的なものが必要ではないのかなと。サッカーの試合だけでスタジアムの維持管理を補うことは不可能に近いです。J クラブもそうですが施設管理を取っているクラブもあります。イベント、コンサート、ホテルが隣接していても良いと思います。本格的な複合型スタジアムはまだ日本にありません。そのようなスタジアムが建設出来るよう頑張っていきます。

【梶原】

ありがとうございます。以上が本日の開催に伴い、皆様いただいた質問事項への回答でございます。その他に何か質問事項などある方いらっしゃいますでしょうか？

【出席者 B】

このサポーターカンファレンスは完全非公開ですか？

【梶原】

公開です。

【出席者 B】

もうひとつ良いですか？チームスケジュールの更新が少し遅れているようなのですが出来れば早めに更新いただければと思うのですが。

【岩瀬】

実際スケジュールに関してですが大まかに決まっている部分はありますが選手たちの体調などを見てオフの日を決めていきたいという方針があります。どうしても人間は土日が休みだと何か土日を目指して働いたりしてしまいます。監督の方針としてはそういったやり方は止めたいと話がありました。日々を 120%努力させたいということがありますので、今シーズンは更新が遅れることが発生すると思います。ただ、トレーニングマッチにも皆さんにも来ていただきたいと思っておりますので可能な限り早い段階でしっかりアップ出来るように努力していきます。

【参加者 C】

今年のアウェイゴール裏は昨年と変わらないですか？

【梶原】

はい、アウェイゴール裏はメイン向かって左側。ホームは右側で変更はありません。

【参加者 D】

そこで要望というか、昨年あったことなのですがどうしてもけやき通りのほうに出てゲートに行くアウェイサポーターがいるのですが、看板とか矢印とかが全くないのでどうやって行けば良いのか分からないんじゃないかなと。実際道路に出てゲートに向かうこと自体に驚かれます。逆にアウェイに行ったときにどこに行けばいいか分からないというのは良くないんじゃないかなと思いますので目印とか経路を示すものがあつたら良いと思います。

【梶原】

ありがとうございます。案内看板は会場全体図含め増やしていくと同時にアウェイゴール裏ゲートの場所に関しては変更させていただきます。アウェイゴール裏はメインスタン

ドの 1 番左側にも柵の扉がございます。そちらへ変更させていただきます。ですので、けやき通り側を移動する方は減るのかなと思います。

【参加者 E】

スタジアムグルメの開店時間ですがもう少し早めに出来ないですか？11 時だと開場の時間と重なってしまっても買いたくても買えない方がいるんじゃないかなと思います。これから人が増えてくると席取りとかの問題が出てくると思うので。

【梶原】

クラブとしては可能ではありますが、出店業者が仕込み含めて前倒しが可能なのかという部分が問題として出てくるので確認して可能であればオフィシャルで早めることは可能です。

【梶原】

他にございますでしょうか？

【参加者 F】

よろしいでしょうか？今年東北六魂祭と試合日が重なっていると思いますがその日は試合運営をどのように行うことを想定していますでしょうか？

【梶原】

東北六魂祭の日、ホームでの町田ゼルビア戦に関してですが私たちもオフィシャルな情報ではないのですが秋田市中心部全てに交通規制がかかるということを伺っております。これが正式なのかは分かりませんが、当日の図面を確認すると八橋運動公園内にも入れないような交通規制になっているみたいです。しかし、まだ日数ありますので行政のほうと調整を進めながらになります。竿燈よりすごいイベントです。クラブだけで決めることの出来ないことのほうが多いのでしっかりと連携を取っていきます。ある程度の距離のところに駐車いただいて来場いただく方法を導入しなければいけないと思っております。シャトルバスや送迎含め検討していきますが正式に情報が下りてきていない部分がございますので曖昧な回答になってしまうのですが方向性としてはそのような形です。よろしいでしょうか？

【参加者 F】

はい。

【梶原】

他にございますでしょうか？

【参加者 G】

先ほどの応援のときのブーイング等々ですが、そこで相手選手へのリスペクトに欠けるブーイングとかって相手選手がボールを持ち続けるとブーイングするなど侮辱に値するんじゃないかなと思う部分あるのですがそういう部分に関しては、うちに任せてもらう中で判断材料として応援スタイルや雰囲気については BLUE+に全て任せてもらえるということと捉えてよろしいでしょうか？

【加藤】

応援というのは基本サポーターの方々为主となるものだと思いますし、クラブからこういう応援をしてくださいということではないと思います。ですので、その部分に関してはお任せということになります。侮辱とは何を指すのかということだと思います。「お前ら死ぬほど走れ！」という言葉が侮辱になるのか。どうしても人としてもモラルという部分に行き着いてしまいますので、そういう部分はサポーターの皆様でこういう応援をしていこうという部分を明確にし、そこで何か発生した場合はどういう方向にしていくのかということ。サポーターの皆様にも考えていただければと思います。そこにクラブが何か必要であれば話し合う機会を作ったりすることも可能ですが応援スタイルはサポーターの皆様が中心となってやっていただきたいと思います。

【参加者 G】

実際、応援するチームの集合体としては BLUE+しかないのですが、今後俺もやりたいというように考え方も違うというのが出てくることもあるかもしれない。そこで BLUE+が中心となった考え方で行ってもいいか。要は私設でやっているのを公認という形として言ってもらえるのか？

【岩瀬】

あくまでも私設応援団という形で。

【参加者 G】

浦和とかだと結構個人個人が集まってそれがリンクしてサポートしていくという形だと思います。うちはまず BLUE+が自由にやらせていただいているんだけど、例えばうちらと考えが違う人たちが出てきた場合どうするか。うちらとしては相手をリスペクトした形を取る。さっきの闘莉王のブーイングは危険な行為をした選手へのブーイング。危険なプレーをした選手にはブーイングして良いと思うけど何もしていない選手へのブーイングはフェアプレイにも反するし、そこはもう侮辱にも値するんじゃないかなと私的には

考えて、皆さんも不快感を持っていることなんで応援スタイルをうちに任せてもらうとするとそういう場面でのブーイングは止めましょうということと言えるのですが。

【岩瀬】

例えば、例えばですよ。相手がずっと後ろでボールを回しているようなことへ早く前へ出て来いと。早く攻撃に来いというような形でブーイングが起こるクラブもありますよね。だからブーイングに対して線引きはすごく難しいところはあると思います。例えば秋田から移籍した選手がボールを持つたびに、ブーイングを受けますよね。なので、どこから線引きするのはクラブとしてもかなり難しいです。一つだけ言えることは差別的言動は絶対にあってはならないのでそこだけは注意してください。

【加藤】

公認なのか私設なのかといった部分色々ありますがゴール裏はゴール裏でひとつになってもらいたいというのはクラブの思いでもあるので、その中でそのような発言をした方に対してサポーター間でも話しあっていたらいいと思います。そこで万が一ダメあったらクラブとしてもフォロー出来ると思います。

【参加者 G】

そういった話し合いの主導権を BLUE+にもらえるのであれば、うちらも会場の雰囲気作りなども出来ると思いますので。

【加藤】

そこは努力していただくとありがたいです。

【梶原】

他にございますでしょうか？それでは質問事項もないということですので最後岩瀬よりご挨拶させていただきます。

【岩瀬】

改めまして本日は本当にありがとうございました。このような話し合いがクラブを大きくすると思いますし、間違いなくこのクラブは階段を登っております。過去の数字を見れば2010年、スポンサー広告料収入が4,500万円でした。2011年が6,500万円。2012年は7,400万円。2013シーズンは1億円。そして昨期は先月決算書も出ましたが1億1,600万円という形です。今シーズンは皆様もお気づきだと思いますがユニフォームの背中に細谷病院様が入っていただきました。今まで秋田県、JAさんなどが入っていましたが単独の民間の病院さんに入っていただけたことなどプラスの要素があり、今シーズンはだいたい1

億 6,000 万円くらいのスポンサー収入を想定しております。間違いなくクラブがステップアップしていますし規模も大きくなっています。これは僕らだけでは成し遂げられなかったことですし、皆様のサポート、協力があってここまでたどり着きました。

ただ、私は秋田の将来に大きな危機感を持っています。高齢化、秋田の人口減少、経済状況を考えると早く何か手を打たなければいけないと感じています。そういったなかで、Jリーグクラブは絶対的効果を発揮するのは間違いと思っています。しかもそれが地方であれば地方であるほどその効果は大きく現れるものと思っています。秋田だからこそ J リーグの持った、サッカーのエネルギーの効果を発揮することが出来るだろうという話をいただいたこともございます。これを皆様と一緒に成し遂げられればと思っています。

また、アカデミーからも小野もトップチームのキャンプに帯同しています。1次キャンプに帯同して 2 次キャンプには連れていく予定はなかったのですが、監督から他の練習生などを入れるなら小野を連れていきたいという要望を直々にいただきました。彼だけではなく他の選手にもそういった場が上がってもらえるように育成にも力を注いでいく次第であります。

今年、ヘッドコーチに松田。アシスタントコーチに菅原太郎を招聘しました。私も色々なクラブを見てきましたが、1 番強いのはやはり生え抜きのスタッフがしっかり育ってきているクラブが確固たるクラブになっていることを感じました。今シーズン、これから数試合トレーニングマッチがあって開幕を迎えます。蓋を開けてみないと何も分かりませんが私は今までにないくらいの期待感を持っています。皆様の期待を裏切らないようにしっかりチーム強化に務めていきたいと思えます。もっともっとクラブを成長させるために引き続き応援をいただければと思えます。

今年 1 年も皆様とともに、そして最終節みんな笑顔で終われるように出来たらと思えます。今日は本当にありがとうございました。

【梶原】

以上をもちましてサポーターズカンファレンスを終了させていただきます。